

学校評価(共通項目)評価書

朝霞市立朝霞第三中学校

柱	No	評価項目	自己評価	自己評価の説明及び学校の考え	関係者評価	学校関係者評価者の説明
学校の組織運営	1	学校は、学校教育目標達成に向けて、全教職員で組織的に取り組んでいる。	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の肯定的評価は96.1%(昨年度95.9%)と微増、保護者の肯定的評価は93.8%(昨年度95.6%)で減少した。 校長のリーダーシップのもと、教職員が積極的に教育活動に参画し、組織的に取り組むことができた。 校内研修とリンクさせ、具体的な取組の方向性を教職員で共有することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育目標が生徒たちに十分に伝わっていると感じる。 今後も今までの以上の取組を実施し、保護者と良い関係を築いてほしい。 学校の積極的な取組が高い評価として表されていると考える。 特に3年生において、高評価が多く、教育活動全体を通じた目標浸透の成果が数値として表れている。 微増や減少の原因を検討することでより良い結果につながることを願っている。
	2	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の肯定的評価は97.8%(昨年度97.8%)と増減なく、保護者の肯定的評価は92.1%(昨年度91.9%)で微増した。 計画的に安全点検等を実施し、教職員からの情報を共有する体制づくりを整え、早期対応することができた。 生徒指導主任を中心に、いじめ対応や未然防止の体制を共有し、未然防止、早期対応、事後指導を行ってきた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が学校を信頼し、安心して学校生活を送っている様子がうかがえる。トラブルを「0」にすることは難しいが、生徒は困ったら先生に相談でき、先生は真摯に対応する「厚い信頼関係」を構築して欲しい。 再発防止や研修を実施し、より良い環境作りになっていると考える。大袈裟なくらい、活動や改善策をPRすることも必要になってくるのではないかと。
基礎学力の定着	3	生徒は、教職員の指導により、基礎学力を身に付けている。	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の肯定的評価は94.8%(昨年度97.0%)、保護者の肯定的評価も75.2%(昨年度78.9%)で減少した。 校内研修のテーマである「協働的な学び」の実践を教職員が高い意識を持って実践していることと基礎学力の定着の実感が結び付いていない。 全学調、県学調共に概ね平均を上回った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 埼玉県学力学習状況調査の結果において、学力を伸ばした生徒の割合が高いことが高評価の要因である。その一方で、生徒・保護者の評価がやや減少したことが残念である。 高学年ほど肯定的回答が多く、学年進行に伴う学力定着の実感が見られる。 低学年段階での実感値向上が課題である。 「協働的な学び」の実践には時間を要するようなので、引き続き実践して欲しい。
	4	学校は、学力向上をめざし、生徒の実態に基づいて授業改善に努めている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の肯定的評価は93.2%(昨年度94.7%)と減少、保護者の肯定的評価は78.9%(昨年度78.9%)で増減なかった。 校内研修と連携し、外部から講師を招くなど、日々の授業実践とリンクさせ、教職員の資質向上に努めた。 教職員同士で授業を見合うなど、授業改善に努めた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学習環境を整えるための実践への取組スピードが早く、教職員への信頼が高まっている。 研修への取組など、教職員の資質向上に努める姿が評価できる。 生徒アンケートにおいて肯定的評価が高いが、教職員アンケートの肯定的回答が大幅に低下している。授業改善に対する負担感があるのではないかと。 授業参観から、教職員が様々な工夫や研修を重ね、計画的に実践されている姿がうかがえる。その一方で、他学年との連携に課題を感じる。
規律ある態度の育成	5	生徒は、生活のルールに基づき、発達段階に応じた「規律ある態度」を身に付けている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の肯定的評価は97.7%(昨年度97.1%)、保護者の肯定的評価も96.6%(昨年度95.1%)で微増した。 日々の教育活動において、教職員が模範となり、率先して行動することの共通認識を図り、高い意識を持って生徒と接することができた。 生徒が主体的に行動する場を多く設定し、生徒自らが考えることのできる環境づくりに努めた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 落ち着いた雰囲気が三中の伝統になりつつあると感じる。アンケート結果からも生徒たちが意識しながら学校生活を送っていることがうかがえる。 教職員が生徒たちの主体性を大切にしていることを評価する。 不登校対策として、家庭や地域と連携して見守っていく体制を整えていく必要がある。
	6	学校は、生徒の実態把握に基づき、規律ある態度の指導の工夫・改善に努めている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の肯定的評価は97.0%(昨年度96.3%)、保護者の肯定的評価も93.8%(昨年度92.9%)で微増した。 生徒指導部会、教育相談部会を中心に、全教職員で共通理解、共通行動を図り、指導の工夫・改善に努めている。 登下校指導や面談など、教職員が自発的に行動する姿が見られた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会と相談しながら取組を進めたり、生徒からの声を吸い上げたりするなど、学校側の「生徒主体」の実践が見える。生徒の自主性を育て、社会性やルールを身に付けることにつながっている。 生徒アンケートも教職員アンケートも肯定的評価が高水準で推移しており、指導改善の取組が定着している。 SNSトラブルなどの課題も見られるため、より家庭と連携を深めていくことが求められる。
健康・体力向上	7	生徒は、体育の授業や運動部活動、外遊び等の運動に意欲的に取り組んでいる。	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の肯定的評価は95.4%(昨年度95.4%)と増減なく、保護者の肯定的評価は91.3%(昨年度91.9%)で微減した。 体育の授業において、学習内容を工夫し、その種目の面白さや楽しさを伝えることで生徒が意欲的に授業に取り組んでいた。 屋休みに体育館を開放したり、体育委員会の生徒から呼び掛けたりし、生徒が意欲的に活動できるような励みを与えている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 体力テスト結果から、ほぼ県平均を上回っており、意欲的に取り組んでいることが読み取れる。 屋休みに体育館を開放するなど、工夫している取組が見られる。 学年によって評価の差が見られるため、継続的な取組が必要である。 部活動の在り方が変わってきているが、体力づくりの取組も継続してほしい。 委員会活動など、生徒主体の取組が見られる。
	8	学校は、生徒の体力を高めるため、工夫して向上策を講じている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の肯定的評価は91.6%(昨年度93.5%)と減少し、保護者の肯定的評価は86.6%(昨年度84.3%)で向上した。 体力測定に基づき、屋休みに教科運動を実施したり、各種目の掲示物を作成し、掲示したりしたことで運動能力を高めるための策を講じている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 授業内容の工夫をはじめ、教職員の連携体制が全体の運動能力向上に繋がっている。 部活動の地域移行も、引き続き、生徒・保護者・地域の想いを汲み取っていただきたい。 全体としての評価が高いので、さらなる工夫に期待したい。 中学生の間に体力を向上させることは重要なので、多くの生徒が向上を実感できる取組を行ってほしい。
連携	9	学校は、保護者や地域と連携し、その教育力を学力や体力の向上に生かしている。	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の肯定的評価は95.3%(昨年度92.6%)、保護者の肯定的評価も92.4%(昨年度90.5%)で向上した。 土曜開催の体育大会や学校公開(今年度は講演会実施)、ふれあい推進事業の会場校など、保護者や地域と連携した。 なるこ指導において、卒業生や地域の方と連携して実施することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方々と触れ合い、卒業生からの伝統など、お互いの成長につながる取組が行われている。 コミュニティスクールやPTAを通じた連携、学校公開、行事の公開など、保護者や地域と関わる機会が多い。 保護者アンケートの肯定的評価の割合が高いことから、学校への信頼が高いことがうかがえる。
	10	保護者や地域は、学校と協力し合い、生徒の安全指導・健全育成を推進している。	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の肯定的評価は96.1%(昨年度94.1%)、保護者の肯定的評価も96.2%(昨年度91.5%)で大きく向上した。 PTA美化活動において、PTA本部役員が中心となり、保護者や地域の方々と協力して開催することができた。 学校と保護者、地域が協力し合える体制づくりを目指していくために、学校運営協議会との関係をより一層深めていきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒たちの教育環境をより良いものにしていきたいと考えている保護者が参加しやすい雰囲気を作り出し、学校づくりに保護者の参加は当たり前という風土を創り上げてほしい。 地域コミュニティの希薄化も問題視されているが、学校を中心としたコミュニティを盛り上げていく活動を目指してほしい。 学校運営協議会との連携を深めていく。